

牛の肝臓

発表者氏名：山本 千草

発表者所属：北海道東藻琴食肉衛生検査所

獣畜： 牛、ホルスタイン種、去勢、19ヶ月齢

生体検査所見：著変なし。

解体検査所見：肝臓はやや腫大し、辺縁は鈍。黄土色から茶褐色を呈し、直径2～5 cmほどの斑状出血巣の散発を認め、左葉辺縁から臓側面で顕著だった。糸くず状の白色病変が漿膜面から深部まで広範囲に認められた。胆管壁はやや肥厚。肝門リンパ節には著しい出血と乳白色粘液の貯留を認めた。腎臓は直径2 mmほどの結石が数個認められた。その他臓器に著変認めず。

病理組織所見：肝臓はリンパ管の拡張、胆管の増生が顕著。中心静脈周囲と小葉間結合組織に、大小様々な類上皮細胞の集簇が散見された。好酸球、リンパ球の浸潤、軽度の小葉間結合組織の増生、小葉間動脈中膜筋層の肥厚も認めた。肝門リンパ節はリンパ洞に著しい類上皮細胞を認め、一部顆粒を含む。多核巨細胞もわずかに見られた。

病理組織診断名：肉芽腫の形成及び慢性間質性肝炎



写真1：肝臓剖面

糸くず状の白色病変が広範囲に認められた。

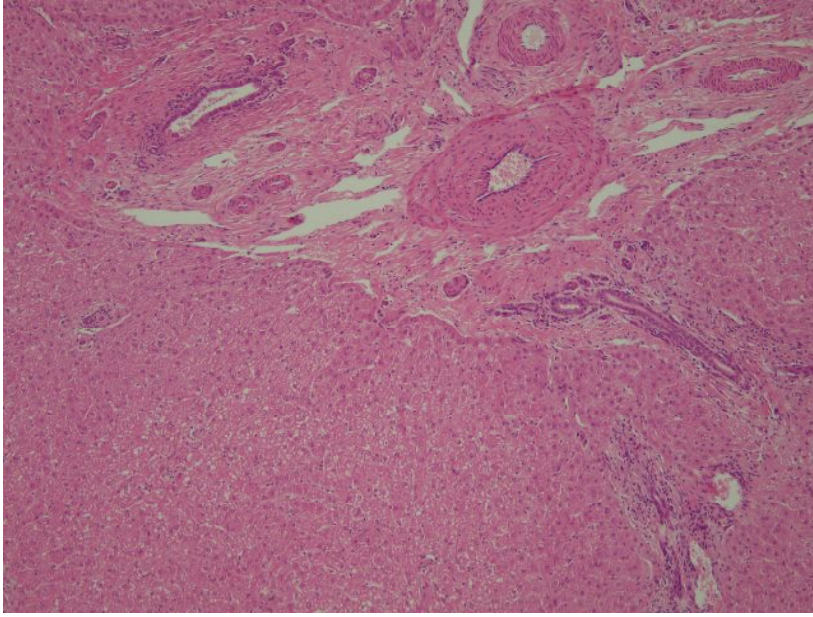


写真2：肝臓（H E 染色、100 倍）
小葉間動脈筋層の肥厚、胆管の増生を認める。

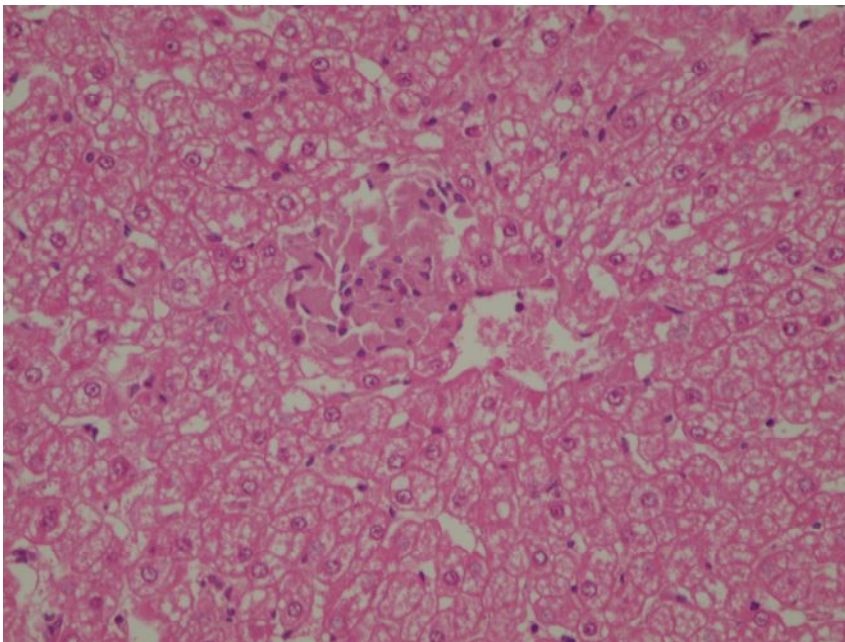


写真3：肝臓（H E 染色、400 倍）
中心静脈周囲に類上皮細胞の集簇を認める。

*平成21年度食肉・食鳥肉病理検査症例検討会提出標本